

寸鉄

大阪市の住民投票をきっかけに、自分たちが住む大阪市のことを

住民としてもっと知ろうと、「大阪を知り、

考える市民の会」が、立命館大学の森裕之教授を講師に連続学習会を行ってきた。「よみがえる大阪市」をテーマにした最終回で、森

教授の講演を聞いた▼大阪市への空襲は、8回の大空襲を含む計28回に上る。1940年に325万人だった人口は、終戦直後の45年10月時点で110万人

に激減。戦前の「大大阪」の時代に大阪市が市民生活向上へ先駆的に築いた学校や託児所、道路などのインフラも破壊された▼戦災復興途上の50年9月に

は、シエン台風が大坂を襲い、被害は台風の勢力以上に拡大。戦後10年の55年、日本の主要都市は40年当時の人口を回復していたが、大阪市だけは78%にとどまっている▼それでも大阪市は戦災復興を最大の課題に、市民施設をつくり、施策を展開してきた▼森教授は「廃墟の中から立

ち上がった市民と、市政の必死の頑張りが、現在の大阪市の礎を築いた。そこに大大阪の精神が引き継がれている」と力説した▼橋下

・維新の会が「大京都」構想に「再挑戦」するというダブル選で、「都」構想の設計図を、もう一度つくり直していかどうかを問う（松井知事）としているが、住民投票での審判に逆らい、「都」構想にしがみつくなれない勢力の醜い野望だ。大阪市の歴史に思いをはせながら、「秋の陣」に臨みたい。